さくら並木

夏点描～熱さの中のホットな話題～

大河原町長　齋　清志

記録的な熱さとなった今年の夏でしたが、何彼と記憶に残る夏でもあったと感じています。日本各地で最高気温が40度を超へ、仙台でも37・3度の観測史上最高を記録しました。本町でも37度を超える日が2回あったと推測されていますが、体温を越える暑さはさすがに体に応える実感を持ちました。最近の報道では政府方針として、全国の小中学校全教室にエアコンが設置されるとのことですが、確かな実現を切に期待しているところです。

また、今夏には西日本豪雨災害が発生したように、日本中どこにおいてもこれまで経験したことのない集中豪雨や土砂災害が懸念される事態となり、他人事ではない認識が極めて重要と受け止めているところです。この度、具体的な地域防災力強化の取り組みとして、市町村長と気象台との間でのホットラインも強化されることになりました。危機意識を確実に伝達できる『顔の見える関係』構築の実現です。皆さまへもテレビ報道等の防災気象情報の正しい活用に理解を求めるとともに、地域防災組織の在り方も含め、早めの避難などの命と安全の確保に全力で対応できるしくみづくりが急務と考えます。『備えあれば憂いなし』の実践が重要です。

一方、長雨続きだった昨夏とは異なり、町内各地で開催予定の夏のイベントは全て実施されたようです。霧雨の降るなかでしたが、『第46回おおがわら夏まつり』も何とか無事実施することができました。仙南で唯一残った花火大会ですが、主催者発表で2万人の観客があったとのことです。実行委員会はじめ、警察署・消防署・本町消防団・交通指導隊・防犯関係者・協賛企業・団体の皆さまのお力添えに心から感謝申し上げる次第です。そのほかの行政区や施設での夏まつりも皆盛会だったと伺っています。心の豊かさや、人と人とのつながりを生む日本の伝統文化の力に、改めて大きな気付きをいただいた思いです。

さらに、7月の終わり頃に『全国学力学習状況調査』の結果の発表がありましたが、本町の小中学生の学力の高さに大いに盛り上がったところです。県教育委員会では学力向上のモデルとして大河原町の取り組みを紹介しているほどです。マスコミでも様々に取り上げられておりますが、兎角問われがちな学力ばかりでなく、本町の小中学生は生活態度も非常に立派で感心させられることばかりです。また、今夏は郡中体連での活躍も目覚しく、東北大会出場者が12名いたほか、さらには、そのなかから大河原中学校の女子ソフトテニス部の個人と金ケ瀬中学校の柔道女子個人が全国大会へ出場するなど、部活でも大きな成果が見られました。関係者並びに教育の現場でのご努力に心から感謝と敬意を表する次第です。

本町は仙南の中心に位置し、その中心性・拠点性・利便性を存分に発揮し、面積は小さくても大きな役割を果す『スーパータウン』と呼ばれています。今後とも本町の持つ特色を活かしながら町全体のブランド化を推し進め、選ばれる先進の町を目指して参る所存です。

（8月21日記）

学び舎通信

町内小中学校の情報を毎月お届けします

大河原小学校

ゲームやスマホの正しい知識と使用を！

本校では、ゲームやスマホの正しい使い方や危険性等を学ぶ情報モラル教育を推進しています。児童会が主体となり、ゲームやスマホに関する本校独自の「さくらばなルール」の達成状況を毎週調査し、結果を放送で呼び掛けたり、ＰＴＡ専門委員会では、長期休業中の各家庭でのゲームやスマホの使用状況の調査を行ったりしています。また、4年生は外部講師を招き、親子揃っての「学び」の機会を設けています。**これからも、家庭を中心としながらゲームやスマホ等と上手に付き合うようにしていきます。**

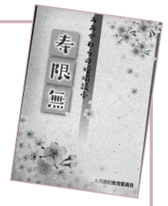
金ケ瀬小学校

美しいハープの調べで豊かな心を

今年のＰＴＡ行事は、日頃ピアノで支援をいただいている石塚希先生をお招きしてのハープコンサートでした。3種類のハープを曲に合わせて変えながら演奏していただきました。3年前は、アイリッシュハープという小さなハープでの演奏でしたが、今回は、それに加えオーケストラハープという大きなハープの演奏も聴かせていただきました。

曲目は、子どもたちがよく知るディズニーの曲や茶色の小瓶、ルパン3世のテーマなど、11曲の演奏を聴かせていただきました。**澄み渡るような音色に、子どもも大人も夢のような世界に浸ることが出来ました。**

暗唱大好き　大中編



雨ニモ負ケズ　風ニモ負ケナイ大中生

6月の柴田郡中学校総合体育大会では、どの部も活躍めざましく、大河原中学校は15の種目で入賞し、13種目で県大会に出場することができました。**県大会でも、女子ソフトテニスの団体優勝・個人優勝をはじめ、多くの部が善戦し、好成績を収めました。**

こうした輝かしい活躍の陰に、選手の日頃からの練習に取り組む姿勢があり、暗唱読本で学んだこともその基盤となっています。**宮沢賢治の「雨ニモ負ケズ」や渋沢栄一の「夢七訓」は、読めば読むほど励まされ、自分もこうありたいと強く思うようになり、自然に精神面が鍛えられていきます。**

なかでも1年生は、1つの題材について、約1か月間音読練習を行い、月末に学級毎に発表会を実施しています。その成果を10月の学習発表会で披露する予定で、発表内容は宮沢賢治の「雨ニモ負ケズ」です。練習を通して、内容の理解をさらに深め、未来の大河原中学校を支える礎としていきたいと思います。

雨ニモ負ケズ　宮沢　賢治

雨ニモマケズ
風ニモマケズ
雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ
丈夫ナカラダヲモチ
慾ハナク
決シテ瞋ラズ
イツモシヅカニワラッテヰル
一日ニ玄米四合ト
味噌ト少シノ野菜ヲタベ
アラユルコトヲ
ジブンヲカンジョウニ入レズニ
ヨクミキキシワカリ
ソシテワスレズ…

駅前図書館今月の新刊　まちの本棚

一般▶ ざっくり甲子園 100 年 100 ネタ
オグマ　ナオト／著　【廣済堂出版】

甲子園にまつわる膨大なエピソードから 100 ネタを厳選し、「選手」「監督」「学校」「勝負」「球場」「大会」「逸話」「人物」の 8 ジャンルに分けて紹介する。高校野球 100 年の歴史がざっくりわかる一冊。

児童▶ 友だち幻想
菅野　仁／著　【筑摩書房】

友だちは何よりも大切。でも、なぜこんなに友だちとの関係で傷つき、悩むのだろう。知らず知らずのうちに、私たちはさまざまな人間関係の幻想にとらわれているのではないか。人と人との距離感覚をみがいて、上手に「つながり」を築けるようになるための本。

小説▶ 火影に咲く
木内　昇／著　【集英社】

沖田総司と布来、高杉晋作と君尾、中村半次郎とおさと…。 幕末の京を駆けた志士と、想いを交わした女たち。彼らが生きた、かけがえのない一瞬を鮮やかに描き出す珠玉の短編集。『小説すばる』掲載を単行本化。

絵本▶ まわるよる
tupera tupera／さく　【小学館】

よる、くいしんぼうのふとしくんがねむると、ガタンとベッドがうごきだし、いつのまにか、かいてんずしのレーンのうえへ。ほかにも、ネタのふとん、シャリのベッドでねむるこどもたちが、ぐるぐるレーンをまわっています。おきゃくさんは、おおきなさかな、えび、かい、たこ…。はたして、ふとしくんのうんめいは!?